

P1-0028

第 14 回全国障害者スポーツ大会（長崎がんばらんば大会）コンディショニンググループへの協力事業

大石 勝規¹⁾, 小泉 徹児²⁾, 重松 康志²⁾

¹⁾長崎県理学療法士協会 長崎国体支援委員会委員長,

²⁾長崎県理学療法士協会 長崎国体支援委員会担当理事

key words コンディショニンググループ・ホスピタリティ・他職種協働

【はじめに】平成 26 年 11 月 1 日から 3 日に第 14 回全国障害者大会（長崎がんばらんば大会）が開催された。各競技会場に先催県でも継続して実施されているコンディショニンググループ（以下、CR）を設置することが決定し、当会への協力依頼を受けた。CR は、選手が万全な状態で競技に臨めるよう有資格者によるサービスを提供する場所であり、治療目的ではないことが前提とされていた。当県では、先催県までの各競技会場にひとつの職能団体が関わるという枠組みを取り払い他職種が協働する CR の運営に成功した。

【活動報告】開催約 2 年前に協力が決定し、活動内容に対する議論を会長、担当理事を含め数名の委員で開始した。平成 25 年 4 月に長崎県理学療法士協会会長付で長崎国体支援委員会を発足し、正式に委員として 10 名任命（のちに 1 名追加）した。平成 25 年 7 月に大会運営事務局主催で第 1 回 CR 検討会議が他の職能団体の代表者も集い開催された。その後も県主催の CR 検討会議に並行して、当協会内の委員会でも実務上のミーティングやマンパワーの確保などにわたる細かな部分まで協議を繰り返した。

大会期間中の CR 運営は大会前日の公式練習日から開設され、15 競技会場で 9 会場に理学療法士が協力した。協力した理学療法士は 90 名（のべ 144 名）であった。

【考察】今回の CR 運営の理念は「ホスピタリティ」であり、どの会場でもサービスが行き届くように各職能団体が担当を分担した。各競技会場にひとつの職能団体が対応する形式と異なり、役割分担や使用物品の調整、調達など含め、多くのコミュニケーションが必要となった。協力した理学療法士は委員をはじめとして、責任とリーダーシップを持って対応し、運営に協力できたと考える。

【さいごに】多くの理学療法士が協力し、長崎県開催の大きなイベントに貢献できたと考えています。発表では、実際の利用者の人数や終了後の反省点や効果的だった点も踏まえ報告したい。